

事前評価報告書

事業名: MOM FoRSTAR

実行団体: 株式会社レキサス

報告者: 株式会社レキサス

資金分配団体: 公益財団法人オリオンビル奨学財団

実施時期: 2021年7月～2024年3月

対象地域: 沖縄

直接的対象グループ:

間接的対象グループ:

概要

事業概要
東京を中心に県外で発生するWEB運用の業務を沖縄の企業で受託し、PCスキルのないシングルマザーがスキルアップしながらWEBデザイナーとして活躍できる体制を構築することで、県内企業だけでは提供できないような働く機会と場を創出し、以下(2)記載の課題を解決していく。 そのためにまずは、県外の大手クライアント企業からの仕事を遂行するために必要な技術習得に向けた実践的研修を提供するとともに、チャレンジするシングルマザーたちが協力しながらチームとして働ける仕組み(コミュニティ)を構築する。 そして、将来的には、ひとり親であることが社会的なハンディキャップではなく、一(いち)プロフェッショナルとしてやりがいと誇りをもって、自分らしい働き方や生き方をできる社会の実現を目指す。
中長期アウトカム
本事業終了から3年後には、本事業により経済的に自立し、コミュニティ・チーム運営スキルを手に入れたシングルマザーたちが自ら法人等を立ち上げ、県内外のIT企業や支援団体と組んで本事業をモデルとしたシングルマザー就労プログラムを実施し、互いのネットワークを更に広げ、多様なスキルを身につけた人材を社会へと生み出すことで、沖縄県のみならず、「シングルマザー」がハンディと捉えられないことのない社会を目指す。
短期アウトカム
<状態> 1人で難易度低の仕事をできる
<スキル> 技術力(難易度低)、コミュニケーション力を習得
<意識> チャレンジ精神と諦めない心が醸成される
<生活> ・年収200万円以上(フル稼働した場合)
<波及効果> ・子どもが応援、協力してくれる
<コミュニティづくり> ・活動拠点が継続的に利用されている

事業の背景

(1) 社会課題
沖縄在住のシングルマザーが抱えている以下3点の課題 ①ワーキングプアから脱却すること ②社会からの孤立状態を解消すること ③将来への不安感を希望に変えること
(2) 課題に対する行政等による既存の取組み状況
平成30年度沖縄県ひとり親世帯等実態調査の「生活の状況(収入と就労)」によると、沖縄県内のシングルマザーの就労率は90%を超え、日本のトップクラスだが、仕事の掛け持ち率が高く、帰宅時間が遅い(労働時間が長い)。その一方、就労収入は全国平均と比べて低いなど、沖縄県内のシングルマザーの多くが明らかにワーキングプアの状態にあることがわかる。これには、全国一低い最低賃金や、労働環境が整わない零細企業、労働単価の低いサービス業の多さなど、県内企業における労働環境の悪さが影響しているものと思われる。 このような状況下で、シングルマザーがワーキングプアから抜け出すためには、より給料の高い仕事に就けるようになるためのスキルを習得することも必要になる。 上記平成30年度の調査では、「シングルマザーが取得したい資格」として、希望の多い順に「①パソコン基礎(エクセルワード)」が19.5%、「②医療事務」が10.5%、「③パソコン応用(プログラミングなど)」が9.0%、「④簿記」が8.5%となっており、ITスキル習得に向けた関心が高いことがわかる。 しかしながら、上記平成30年度の調査では、沖縄県内のシングルマザーは全国に比べて持ち家率が低く、69.6%が民間、公営住宅の家賃を支払っている(全国平均は48.5%)など、固定費の支出も大きく(自動車の保有による維持費も影響を与えている)、約50%が「貯金なし」と、まったく余裕のない暮らしを余儀なくされている。その結果、「現在の暮らしについて」は、「大変苦しい」が25%、「苦しい」が17%、「やや苦しい」が35%と、8割近くが苦しいと感じている。 「現在特に不安や悩みを感じていること」については、「家計(生活費)」が73.6%と突出して多く、次いで「子育て・教育」が43.0%、「仕事」が28.0%、「自分の健康」が25.6%、「借金」が22.9%と、就労や生活などに関する悩みが大半となっている。 そのような悩みを抱えているものの、「心配事などの相談相手がない」と答えた人が12.8%もいることから、沖縄県内のシングルマザーたちの多くが、就労や生活の悩みが解消されずに、不安を抱えながら日々の生活に追われているのが現状である。このような状況の中では、シングルマザーが仕事と育児を両立しながら、さらに新しいことにチャレンジすることは、体力的にも精神的にも容易なことではない。

評価実施体制

内部/外部	評価担当分野	氏名	役職等
内部	支援対象者の状況		しんぐるまざあず・ふぉーらむ沖縄
外部	プログラムの実施内容等		株式会社うまさんラボ

評価実施概要

評価実施概要

事前評価業務を対面とオンラインの両方で、4月10日～7月31日の期間に実施した。
課題、事業対象、設計および計画の妥当性評価については、関係者との協議、沖縄県などの調査レビュー、支援対象者へのインタビューを通して実施した。

自己評価の総括

評価結果の要約

評価要素	評価項目	考察（妥当性）	考察（まとめ）
課題の分析	①特定された課題の妥当性	高い	<p>【評価小項目】 沖縄のシングルマザーをとりまく現状の課題を十分に把握しているか</p> <p>【評価計画に基づく調査の結果】 平成30年度沖縄県ひとり親世帯等実態調査の「生活の状況（収入と就労）」によると、シングルマザーがワーキングプアから抜け出すためには、より給料の高い仕事に就けるようになるためのスキルを習得することも必要になり、特にITスキル習得に向けた関心が高い。しかしながら、約50%が「貯金なし」と、まったく余裕のない暮らしを余儀なくされている。その結果、「現在の暮らしについて」は8割近くが苦しいと感じている。また、「現在特に不安や悩みと感じていること」については、「家計（生活費）」が73.6%と突出して多く、次いで「子育て・教育」が43.0%、「仕事」が28.0%、「自分の健康」が25.6%、「借金」が22.9%と、就労や生活などに関する悩みが大半となっている。</p> <p>そのような悩みを抱えているものの、「心配事などの相談相手がない」と答えた人が12.8%もいることから、沖縄県内のシングルマザーたちの多くが、就労や生活の悩みが解消されずに、不安を抱えながら日々の生活に追われているのが現状である。</p> <p>今回のヒアリングによって、上記のアンケート結果を裏付けるような、シングルマザーが仕事と育児を両立しながら、さらに新しいことにチャレンジすることは体力的にも精神的にも容易なことではないことを実感し、設定した課題の妥当性が高いことを確認することができた。</p> <p>【結論（考察）】 「沖縄のシングルマザーをとりまく現状の課題を十分に把握しているか」について、沖縄県のアンケート調査に加えて、MOM FoR STAR 1期生の応募者及び採択者へのヒアリングから得られた内容もふまえると、事業計画書に記載した「解決しようとする課題」の3つを同時に取り組んでいく必要があることを裏付けるものであったといえる。以上のことから「①特定された課題の妥当性」については「高い」と自己評価した。</p>
	②特定された事業対象の妥当性	高い	<p>【評価小項目】 沖縄のシングルマザーをとりまく現状の課題を十分に把握しているか</p> <p>【評価計画に基づく調査の結果】 本事業においては、「キャリアを積んで収入を上げたい」「やりがいのある仕事に就きたい」そして、「ひとと繋がってみたい」と思っているが、その一歩を踏み出せないでいる沖縄県内のシングルマザーを対象にしており、妥当性は高いと判断する。</p> <p>一歩踏み出すシングルマザーがワーキングプアから脱却できるように、県外のWeb業務の研修と仕事を提供してくれる企業と、県内のシングルマザーの支援団体とも連携しながら取り組んでいく。</p> <p>【結論（考察）】 「沖縄のシングルマザーをとりまく現状の課題を十分に把握しているか」について、沖縄県のアンケート調査に加えて、MOM FoR STAR 1期生の応募者及び採択者へのヒアリングから得られた内容もふまえると、事業計画書に記載した対象者が妥当な対象であることを裏付けるものであったといえる。以上のことから「②特定された事業対象の妥当性」については「高い」と自己評価した。</p>
事業設計の分析	③事業設計の妥当性	高い	<p>【評価小項目】 最終的に解決したい目標や中間的なアウトカムを達成するための事業設計ができていますか</p> <p>【評価計画に基づく調査の結果】 ワークショップを通じてロジックモデルを作成し、自団体と協力団体においてアウトカム達成のために必要十分な活動内容が盛り込まれているか協議を行った。（詳細はロジックモデル参照）それをふまえて、本事業を通じて解決しようとする3つの課題それぞれに対して、以下のように取り組む内容を決定した。</p> <p>①課題：ワーキングプアから脱却すること → 取組：技術スキルの習得と実務経験 ②課題：社会からの孤立状態を解消すること → 取組：シングルマザー同士のコミュニティ形成 ③課題：将来への不安感を希望に変えること → 取組：チャレンジプロセスの発信と応援</p> <p>【結論（考察）】 「最終的に解決したい目標や中間的なアウトカムを達成するための事業設計ができていますか」について、資金分配団体と行ったワークショップから得られた上記の結果は、本事業の設計が事業計画書に記載した社会課題の解決へ寄与しうることを裏付けるものであったといえる。以上のことから「③事業設計の妥当性」については「高い」と自己評価した。</p>
	(④事業計画の妥当性)	高い	<p>【評価小項目】 目標・アウトカムや事業設計の内容の達成状況・進捗状況を測定できるように具体的な指標を設定しているか</p> <p>【評価計画に基づく調査の結果】 事業契約段階ではコロナ対応を盛り込んだ計画を策定していなかったため、計画の一部は縮小や見直しが必要になる。コザに開設した拠点の影響で地域の企業や団体との関係性ができてきたので、この地域連携を生かしたような取り組みも期待でき、適宜計画の見直しを進めながら、事業効果の高い活動を進めていけると考える。</p> <p>【結論（考察）】 「目標・アウトカムや事業設計の内容の達成状況・進捗状況を測定できるように具体的な指標を設定しているか」について、資金分配団体と行った複数回にわたる協議から得られた上記の結果は、本事業の計画がアウトカム達成に資する内容と指標の設定のもと、実現可能なものであることを裏付けるものであったといえる。以上のことから「④事業計画の妥当性」については「概ね高い」と自己評価した。</p>

事業計画の確認

重要性（評価の5原則）

本事業は、「ひとり親であることが社会的なハンディキャップではなくなり、シングルマザーであっても自分らしい働き方や生き方をできる社会を実現する」ことを目的としており、そのためシングルマザーたちが経済的に自立することに加えて、プロフェッショナルとしてやりがいと誇りをもって働いているかを検証することが評価において特に重要であると関係者間（実行団体、資金分配団体、外部関係機関）で合意された。

今後の事業にむけて

事業実施における留意点

コロナの影響により、県内外でのチームビルディング合宿が開催できない状況である。シングルマザーが自立して仕事する上では、専門的な技術だけでなく、仕事に向き合うためのマインドや、関係者とのコミュニケーション力も必要になるので、研修の時期や方法を変更するなど、計画内容を見直しながら進めていく必要がある。

添付資料